

富士山！万歳！！

8月7日（月）～ 8月10日（木）

IN 静岡県立富士山麓山の村～赤岩八号館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発・作戦会議	施設に到着	作戦会議②
2日目	作戦会議③・買い出し	準備・仮眠就寝	富士登山スタート
3日目	山荘到着・休憩	山頂到着・下山	振り返り
4日目	施設清掃・プール	関西に向け出発・解散	

一日目： チャレンジキャンプ「富士山！万歳！！」、今年も始まりました。今回は台風の影響で予定しているプログラムが大きく変更となりますが、頑張って山頂を目指します！！尼崎から富士宮市へ向かう道中、車内では初めましてのメンバー同士、自己紹介から始め、好きなものなど徐々に会話も弾んでいきました。途中のSAで昼食を食べる頃にはどのグループも仲良く話し合える関係を築かれていました。目的地の「富士山麓山の村」に到着すると、台風の影響で雨が降っていたり、濃霧が立ち込めていたりしていましたが、逆にそれが幻想的でメンバーの楽しみを駆り立てたようです。施設の使い方の話を聞き、夕食の支度をしました。各々役割を探し、率先して取り組まれていました。片付けも手際よくされ、手早く終える事が出来ました。入浴を済ませ、みんなでどんな備品をどれだけ必要か話し合いました。グループ単位で考え、それをみんなでシェアし、決めていくのですが、なかなか思うように結果がまとまりません。言いたい事があるメンバーも周りに遠慮して言わなかったり、意見に自信がなく行動に移せなかったりする様子が伺えました。結局、何も決定する事なく終えてしまいました。明日の午前中は買い出しです。それまでに決める事が出来るでしょうか？



二日目： 朝起きて朝食を済ませると昨日に引き続き、持っていく備品の話を行いました。昨日の重たい空気から一変、「何がある？」と率先した声掛けがあちらこちらから聞こえていました。施設麓まで買い出しに出掛けました。どのグループが何をかうかを決めていたので、スムーズに買い揃える事が出来ました。昼食後、個人装備の用意を行いました。今回登るルートの確認と、注意、意識しないといけない事、それによって何が必要になるか、沢山の情報を聞き、それを基に準備を進めました。また、山頂で送るハガキを書きました。今の気持ちや富士山への想いなどを書きました。準備を終えると、夜に備えてしっかり寝ました。なかなか寝付けない方もおられましたが、しばらくするとどの部屋からも心地よさそうな寝息が聞こえました。夕食を済ませるとみんなの備品と自身の持ち物をリュックに詰め込み、富士山へ出発しました。リュックの重さに驚かされている方もおられましたが、意気込みは皆十分です！！頑張って山頂を目指そう！！

三日目： 日が回る頃、体を5合目に慣らし、準備をしてから出発しました。昼夜逆転している一日に眠さを拭えない方もおられましたが、登り始めると皆真剣な表情でした。6合目を越え、7合目に差し掛かる頃に、体調不良を訴えるメンバーが出て来ました。そういった時こそ周りからの声掛けに元気をもらい、自身に負けないように一步一步踏み出されていました。8合目まで登ると高山病がメンバーを襲って来ました。体調不良を訴える方が続出し、かかっていない方も自分に手一杯で周りへの配慮も難しくなってきました。体力も尽きかけた頃、ついに目的地の【赤岩八合屋形】に到着しました。山荘で朝食と休息をじっくり行いました。ここでいただいたご飯に心から「美味しい！」と絶賛の声が沢山聞こえてきました。休息後、山頂を目指しました。体調不良の影響で全員ではありませんでしたが、目指すメンバーは行けなかった方

の分も頑張りました。山頂にて、ハガキを出し、お土産を購入し、体力も尽き、時間もあまりなかったので、足早に下山しました。休みが合間にあるとはいえ、長時間歩き続けているので、さすがに皆疲れ切っているようでした。お世話になった山荘に立ち寄り、更に下山を進めました。途中に『大砂走り』という富士山を駆け下りる箇所があったので、そこを楽しく降りることが出来、気持ちのリフレッシュが少し出来たように感じました。長い時間かけてついに富士山5合目に戻ってくることが出来ました。車内に乗り込むと、リーダー、メンバー問わずすぐに眠ってしまいました。施設へ帰ってくると夕食の準備を行い、いただきました。その後は入浴を済ませ、寝る前に荷物の片付けだけをして、就寝しました。布団に入るとすぐに眠り、大きな寝息が聞こえてきました。本当にお疲れ様でした。



四日目： 怒涛の一日を終え迎えた朝は、疲れが出ており、なかなか起きてこれませんでした。それでも帰る用意や食事の準備をしないといけないので、重たい体を必死に動かされている様子を伺えました。朝食後、みんなで片付けをしました。それぞれの個人の持ち物はもちろんのこと、使ったログハウス、お風呂場を清掃しました。職員さんからも最高のお褒めをいただけるほど、キレイに仕上げました。施設にお礼を伝え向かった先は、初日から楽しみにされていたプールです。この時ばかりは今までの緊張を解き放ち、楽しむことを全面に押し出して、笑顔いっぱい楽しみました。プールを楽しみ、関西へ向かうために出発しました。途中のSAにて昼食を済ませると、お土産購入時間のスタートです。帰りを待たれている方へのお土産や、自身のお土産など考え、購入されていました。その商品に皆満足気でした。全ての行程を終え、一路関西へ向かいました。途中、眠られる方や最後まで友達と話、楽しまれている方、富士山の思い出を話されている方など各々の時間を過ごされていました。京都に到着前に、「富士山から学んだこと」、「もう一度登りたいか?」と質問をみんなにしました。チームワークや応援の大切さ、自然の怖さなど学ばれ、登りたいか?という質問に、しんどい、登りたくないという正直な意見もあれば、もう一度挑戦したい、今度こそ山頂に行きたい、という声も聞くことが出来ました。様々な想いが富士山から生まれ、解散時の姿は初日に比べ、とても遅しくなられているように感じました。

<キャンプ総括>

今年は『台風』に序盤から悩まされました。登頂する為の可能性をいくつか考えたのですが、どれもリスクが高く、その中から一番可能性の高い“夜からゆっくり登る”を選びました。このプランは正直大人でも厳しい内容でした。責任者として、「安全第一」を念頭に置き、企画、実施するので『山頂まで登らない』がベストだったのかもしれませんが。ですが同時に、「挑戦と感動」も感じていただきたい想いもあり、その狭間に葛藤しました。私が今回選んだパターンは決してベストではありません。辛い思いをメンバーに与えてしまった事を心よりお詫び申し上げます。厳しい環境下で富士山に対して、皆さんが今思われていることは、「しんどい」、「もう行きたくない」が強いと思います。その中でも富士山から学んだこと、友達から感じた事は、心身共に疲れが取れた後にじわじわと感じてきます。その想いを大事にしていきたいです。そして、来年も一緒に登れる事を心よりお待ちしております。(竹中 哲郎)